第１回山形県総合教育会議議事録

１　場　　所　　山形県庁舎　秘書広報課内会議室

２　日　　時　　平成 27 年５月 18 日（月）

３　出 席 者

知　事　吉村　美栄子

山形県教育委員会

委員長　長南　博昭

委　員　菊川　明

委　員　小嶋　彌左衛門

委　員　涌井　朋子

委　員　武田　靖子

委　員（教育長）　菅野　　滋

４　協議事項

(1) 山形県総合教育会議運営要綱（案）について

(2) 山形県教育、学術及び文化の振興に関する施策の大綱（案）について

(3) まち・ひと・しごと創生総合戦略について

５　議事の経過

司会：教育庁総務課副主幹

開　　会

それではただ今から、第１回山形県総合教育会議を開会いたします。

開会にあたりまして、吉村知事より御挨拶をいただきます。

吉村知事

本日はなにかとお忙しい中、第１回山形県総合教育会議に御出席いただきまして誠にありがとうございます。長南委員長をはじめ、各委員の皆様方には、日ごろ本県の教育行政の充実発展に特段の御尽力を頂いておりますことに厚く御礼を申し上げます。

さて、教育委員会制度改革によりまして、全ての地方公共団体で、総合教育会議を設置し、教育委員と首長が協議のうえ、教育等の振興に関する大綱を策定することとなりました。

この大綱は、本県の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の目標や基本的方針となるもので、現在教育委員会で策定をするよう進めておられます第６次山形県教育振興計画に先立って策定するものです。

大綱につきましては、今年の３月に準備会議を開催し、大綱の素案を協議していただきました。本日は、４月１日から 30 日に実施しましたパブリックコメントを踏まえ、改めて教育委員の皆様と協議をするものです。

また、4月16日になりますが、第1回山形県総合戦略推進本部会議を開催いたしまして、人口減少問題は本県にとって大変重要な課題ですので、このことについて会議を始めたところです。10月を目途に本県の総合戦略を策定することとしておりますが、山形県にとって本当に大事な課題ですので、本日は教育の面からも課題や解決方策などについて意見交換をお願いできればと思います。

私は、県民一人ひとりが喜びと幸せを実感できる「自然と文明が調和した理想郷山形」の実現に向けて、皆様方と力を合わせて、本県の教育行政の充実発展に努めて参りたいと思いますので、是非忌憚のない御意見を賜りますようお願いを申し上げ、あいさつといたします。

よろしくお願いいたします。

協　　議

早速、次第の3「山形県総合教育会議運営要綱（案）について」に入ります。

なお、この会議の議事録については、発言者の委員名を含めまして記載のうえ後日公開することとしておりますので、あらかじめ御了承をお願いいたします。

また、本日の会議は14時30分の終了予定としておりますので、御協力方よろしくお願いいたします。

それでは、ここからの座長は、吉村知事にお願いしたいと思います。
吉村知事、よろしくお願いします。

吉村知事

それでは、暫時の間座長を務めさせていただきます。

終了は、14時30分を目途に会議をさせていただきますので、御協力よろしくお願いします。

では、「山形県総合教育会議運営要綱（案）について」ですが、これにつきましては、今年の3月に開催した準備会議で了承いただいた内容から変更ありませんので、原案どおりとしていかがですか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

吉村知事

それでは、山形県総合教育会議運営要綱は、原案のとおり決定いたします。

次に、4の協議の（1）「山形県教育、学術及び文化の振興に関する施策の大綱（案）について」、パブリックコメントを踏まえて、事務局から説明してください。

教育庁総務課長

それでは、私の方から、「山形県教育、学術及び文化の振興に関する施策の大綱（案）」につきまして御説明申し上げます。

資料１－１の１頁に記載しておりますが、この大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づいて策定するものです。

２に記載のとおり、平成27年度から31年度までの５カ年間の計画期間で、県の長期構想、県づくり構想のうち教育、学術、文化に関する展開方向、あるいはその後の社会情勢の変化に対応する新たな視点も加味して策定するものです。

具体的な内容は、２頁４の「基本的な方針」に青書きで書いてあるものが、大綱の本体部分です。

基本的には、３月６日の準備会議で御協議いただいた内容と同様ですが、「郷土愛を育む教育の推進と若者の県内定着の促進」を１番目に持ってきております。２として「生命の継承の大切さに関する教育の推進」。３として「社会を生きぬく力を育む教育の推進」。３については、３月６日時点では「学校におけるきめ細やかな教育の推進」となっておりましたが、本文と整合性を図る意味で若干直させていただきました。４として「安全・安心な教育環境の整備と「活力ある学校」づくりの推進」。５として「学校と家庭・地域の連携・協働による教育の充実と地域活性化の推進」。５については、本文の「学校と家庭・地域」のあとに「それぞれの役割を認識しながら」という文言を加えさせていただきました。準備会議において「連携をとることも大事だが、それぞれの役割をしっかり」との御意見がありましたので、そこを加筆いたしました。６として「県民一人ひとりの能力の発揮と楽しさや生きがいにつながる文化芸術、スポーツ活動の促進」。７として「山形ならではの“自然との共生の文化”に基づく地域づくりの推進」。

以上、この７つの柱に基づく大綱ですが、３頁以降は、大綱本体と併せまして、具体的にどういう施策を展開していくのかということを御理解いただくために、参考ということで施策の展開方向を記載したものです。

この形で、４月１日以降４月30日まで１カ月間、パブリックコメントということで県民から意見を募集いたしました。その結果が、資料１－２です。

２に記載のとおり、５名の方から９件の意見が寄せられております。

３が主な御意見の概要ですが、（１）の郷土愛の関係では、「郷土愛を育む教育あるいは県内の「起業」を目指す若者のチャレンジを支えていくことも大事です。」という意見など３件いただきました。（２）の生命の継承の関係では、「こういったことは画期的だ。積極的に取り組んで欲しい。」という御意見が１件ありました。（３）の社会を生きぬく力を育む教育の推進の関係では、「探求型の学習をうまく展開していくためには教員の資質の

向上も大事である。」という意見など３件いただいております。（４）の安全･安心な教育環境の整備と「活力ある学校」づくりの関係では、「今後、少子化の中で高校の統廃合等も生じてくるのは避けられないが、生徒の教育環境を第一に対応して欲しい。」という具体の留意点などをいただきました。（５）の文化芸術、スポーツの関係では、「ワーク・ライフ・バランスは、文化芸術、スポーツ、学校と家庭・地域の連携・協働による取り組みの充実を図る上で重要なので、推進されることを望みます。」という御意見でした。

以上９件の意見ですが、基本的に大綱のパブコメ案に記載した中身について、賛成の立場から、積極的に推進してもらいたい、こういった点に留意して展開してもらいたいという御意見と受け止めましたので、大綱案については､特段修正等は必要ないと事務局としては受け止めたところです。

なお、参考まで、大綱と整合性を取りながら策定を目指しております６教振についても、大綱と同様パブコメを行い、２頁目に記載しているとおり 10 名から 14 件の意見をいただきました。いずれも記載のとおり、こういった視点も大事に進めて欲しいという賛成の立場からの意見でしたので、こういった点を踏まえて、６教振の方も策定して参りたいと考えております。

簡単ですが、説明は以上です。よろしくお願いします。

吉村知事　ただ今の説明について、何か御発言ありますか。

なければ､「山形県教育、学術及び文化の振興に関する施策の大綱」については、案のとおり決定したいと思いますが、よろしいですか。

［「はい」と呼ぶ者あり］

吉村知事　では決定といたします。

つづきまして（２）の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について、事務局から説明願います。

企画振興部
企画調整課
総合戦略推進主幹　それでは私から、本県における地方創生に係る総合戦略の策定に向けた取り組みについて御説明したいと思います。

最初に、政府及び本県における取り組み状況についてです。

資料２－１を御覧ください。政府は、昨年 11 月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、12 月に「まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」と「総合戦略」」を策定しました。

政府が策定した 2060 年を視野に置いた「長期ビジョン」では、人口減少

問題の克服として「2060年に１億人程度の人口を確保」するといった目標を掲げ、①人口減少の歯止めや②「東京一極集中」の是正に取り組むとともに、成長力の確保として、2050年代に実質ＧＤＰ成長率1.5～２％程度を維持するとする目標を掲げております。

その長期ビジョンのもと、2015年度から2019年度の５カ年の総合戦略を策定し、「地方における安定した雇用を創出する」など４つの基本目標を設定し取り組むこととしております。

本県では、政府の取り組みに先立ちまして、昨年６月に、人口減少の進行について改めて危機意識を持って捉え、より効果的な人口減少対策に取り組んでいくため、県の関係部局が連携した「人口減少対策プロジェクトチーム」を設置しました。

資料２－２にありますとおり、昨年12月には、その人口減少対策プロジェクトチームで「中間報告」を取りまとめております。資料右側にありますとおり、「今後の新たな施策展開の方向性」としまして、「産業振興・雇用創出戦略」から「活力ある地域づくり」までの４つのテーマを設定し、具体的な施策について検討したところです。

昨年度に本県が取りまとめました「中間報告」における４つのテーマと政府の「総合戦略」における４つの基本目標を比較しますと、本県の「中間報告」と政府の「総合戦略」とは基本的に合致しているといった状況にあります。

また、この「中間報告」に盛り込んだ事業の中には、既に予算化を図り先行して取り組んでいるものもあります。

これらのことを踏まえ、今後は、この「中間報告」を土台にしながら、さらに新たな取り組みを加え、本県の「総合戦略」を今年10月までに策定していきたいと考えております。

ここで、これら「中間報告」でまとめました４つのテーマごとに教育分野との関わりを見てみますと、第１のテーマである「産業振興・雇用創出戦略」では、産業振興を図っていくためには、将来の産業界を担う人材の育成が重要であるとの考えの下、子ども達に、本県で働くことの意義や働き続けることの重要性を認識してもらうこと。第２のテーマである「人材の県内定着・県内回帰」では、精神性の高い文化やお互いを思いやる心などの本県の素晴らしい魅力でありますとか、地域で生活することの素晴らしさを子どもの頃から認識してもらうこと。第３のテーマである「総合的な少子化対策」では、男女が協力して家庭を築き、子どもを生み育てることの意義や子どもや家庭の大切さに対する理解を深めてもらうこと。第４のテーマである「活力ある地域づくり」では、自然や伝統文化などの地域資源を活用し地域と子ども達との交流を深め、子ども達に地域の人々との

関わり合いの素晴らしさなどを実感してもらうことなどがありまして、このことからも、教育分野における取り組みは、本県の地方創生に向けた取り組みとの関わりが深いものであると考えておりまして、重要な取り組みであると受け止めております。後ほどお話しする「総合戦略推進本部」におきましても、具体的な取り組みについてさらなる検討をお願いしておりますので、引き続きよろしくお願いします。

続きまして、資料２－３の「総合戦略」策定体制であります。

このたび本県では、人口減少を克服し、人と地域が輝く「やまがた創生」の実現に向けた地方版総合戦略を策定するための庁内体制として「総合戦略推進本部」を４月 16 日に設置したところです。

この推進本部は、知事を本部長に、本部員を各部局長等で構成しておりまして、この推進本部のもと、政府、地方における最重要課題である「地方創生」に係る本県の「総合戦略」の策定に向け全庁挙げて取り組むこととし、同日、第１回会議を開催しました。この会議における協議を踏まえ、４月 28 日には、各部局の主管課長で構成する第１回幹事会を開催し、新たな視点を加えた事業の具体的な検討など、総合戦略の策定作業に着手したところです。

このほか、県の重要な政策について調査審議する「山形県総合政策審議会」ですとか、市町村、金融機関、大学、県民の皆様などから、幅広く御意見を伺いながら、「総合戦略」の策定を進めることとしており、既に様々な方々から御意見をいただいております。

最後に、活動スケジュールです。資料２－４を御覧ください。

先程申し上げましたとおり、第１回本部会議を４月 16 日に開催しておりますが、本部会議については、９月に第２回会議を開催し、人口ビジョン（案）、総合戦略（案）について協議することとしております。その後 10 月に第３回会議を開催しまして、人口ビジョンと総合戦略を決定してまいります。

説明は以上です。

吉村知事　事務局から説明がありましたが、御質問のある方はいらっしゃいますか。

人口減少問題というのは本県にとって大変重要な課題です。従来から取り組んではいるのですが、更に危機意識を持って取り組んでいきたいと思っております。

教育の面からもよろしくお願いしたいと思っておりますので教育、芸術文化、スポーツ振興などの視点で見た地方創生の方策について、皆様が日ごろお考えになっていること、取り組んでいくべき課題などについて、御発言をお願いできればと思っております。

時間の関係もありますので、大変申し訳ありませんが一人３分程度でお願いしたいと思います。

はじめに、長南委員長、発言をお願いします。

長南委員長　大綱が決定しました。

この大綱は、山形県の大綱ですから、第１から第７までの総合方針に沿って、大事なのは山形らしさを発揮するということ、山形らしさがないとだめなのではないのかなと思います。

全国で色々な施策を作っていますが、全国レベルの施策だけではやはり不足です。そこに山形県らしさを導入していかないと、本当に子ども達が地域に戻ってくるところまでには変わっていかないのではないかなと思います。

そのために山形県では、小中学校の段階からこのことに意を尽くしていかなければならないのではないかと思います。

その基盤となる、教育山形「さんさん」プランという大事な施策があります。この施策を是非効果のあるように結び付けていく必要があるのではないかなと思います。この施策というのは、教育方法ではなくて教育制度の問題ですので、制度ですからそう簡単にやめましたということにはならないと思いますが、是非続けていただきたいと思います。今これは全国の学級編成のモデルになっておりますので、是非お願いしたいと思います。

今、小中学校では、どちらかというと学習集団に機能を重視した方法がとられていると思いますが、小中学校の場合は生活集団を基盤にした指導が一番の基本ではないのかなと思います。その基盤の拠って立つプランが教育山形「さんさん」プランであり、この方法は、学校で効果が出るために是非取り組んでいただきたいと思います。

生活集団を基盤としたスタイルというのは日本の伝統的な教育スタイルだったわけです。教員の資質能力の向上も問題になっていますが、これを高めるためにも必要な施策ではないのかなと思います。実際に生活集団を基盤にした指導の場面を想定してみますと、一人ひとりの子どもの実情に対応した指導をしながら、教師が子どもと共に悩み、苦しみ、そして少しは時間的余裕がなくなると思いますが、余裕はなくなるとしても、最終的に子どもと一緒に、「わかった」と、「できた」と、そういう感情を共有するということが、教育山形「さんさん」プランにはあるのではないのかなと思います。

最近このことで、どうも成果が上がっていないのではないかという指摘も出てきています。確かに 13 年にもなっていますから、意識も相当変わっているのではないのかと思います。

まず私は、行政の意識がどうなったかなという感じもします。

もしかすると指導主事の人達にも、当時の苦労とか頑張りを分からない方もいるのではないかと。そういうことをもう１回分からせる。そういう意識を作るという取り組みが必要なのではないかなと思います。そして、校長の意識を高めるということも是非考えていく必要があるのではないかと思います。

それから、最近色々な教育の中で、全てをできるようにするという方向は正しいのかなという気がします。できることとできないことがあって個性が生まれてくるのではないのかなと。ですから、できることとできないこと、これは区別して、できないことを無理に頑張らせる必要はないのではないかなと思います。

それから、学校と家庭の役割分担も大綱に入りました。今、家庭の役割がどうも少なくなってきていますので、学校で取り上げてやっていることが多くなりました。ですから、役割分担をしながら失敗体験をさせる、学校でも失敗体験があってもいいのではないかなと思います。でも担任の先生は失敗させたくない。皆がうまくいくような方法を提供してしまう。それで果たしていいのだろうかと思います。

最後に、やはり山形県に必要なのは、学習指導要領の基本に拠ってそれを全員に分からせることは勿論です。その上で伸びる子どもをいかに伸ばすか、このことが不足しているのではないかと思います。子どもの能力適性に応じてできるだけ伸ばす、そういう指導力の向上を、これから考えていく必要があるのではないかなと思います。

吉村知事　ありがとうございます。

山形らしさをしっかり出して、山形らしさを出しているものを継続していくべきだというお話がありました。

中央では 35 人学級もまだまだというところですが、本県では本当に効率的に展開しているわけです。確かに学力なんかでは右肩下がりに近い状況とか色々課題もあるようですが、長南委員長の御意見をしっかりと伺っていければと思います。

では続きまして、菊川委員御発言をお願いします。

菊川委員　今、長南委員長から、教育者という立場から貴重なお話をいただきましたが、私は一般の民間人としてお話させていただきます。

御承知のとおり、今後の社会情勢を見た場合に、グローバル化と少子化がどんどん進んでいくというのは間違いないと思います。従って、この情勢にどう対応していくかという観点から考えていかなければならないんだ

ろうと思っております。

グローバル化についても、日本人がどんどん外国に出て行くということは勿論のことなんですが、更には、日本の若者が日本の国内で外国から来た若者と競い合っていかなければならないという状況になってくるのではないかと思われます。

それから、人口も減少していく中で、やはり一人ひとりの生産力を高めるような方法を講じていかないとだめなのではないかなと考えております。生産性を高めて、それで困難を乗り切っていける社会力をつける。それが教育の役割かなと思っているのですが、このためには、山形は山形だけでというような考え方では到底乗り越えていけない。山形もどんどん県外の人材を集めて、切磋琢磨して、県民も競争して困難を乗り越えていく。刺激を受けていくというような対応が必要なのではないかと思います。

山形にはその素地があると私は考えております。山形は 350 円で毎日温泉に入れます。それから米は勿論おいしい。「つや姫」最高ですよね、毎日食べています。更には酒もうまい。くだものはなんでもあります。それから台風・地震はあまりない。新幹線もあります。更には、飛行場は県内に２箇所あるんですよね。こんな環境の県はそんなにないですよね。私の手元に 10 年前の山形新聞の記事があるのですが、悠々自適っていう、セカンドライフ応援団。10 年前の新聞なのですが、セカンドライフを山形県で過ごすという企画なんですね。それで、寺崎さんという方のようですが、68 歳で、定年で奥さんと一緒に山形に来た。きっかけは、奥さんが寒河江出身の方で、この寺崎さんは岡山県出身の方なんですね。30 年時事通信というところで記者をやっていて、余生を山形で過ごすということでわざわざ山形にいらして、更にそのきっかけは、チラシで温泉付き住宅の分譲を知って買ったと。天童市の荒谷に温泉付き住宅を求めて余生を、今も御存命でお元気なようですが、お暮らしになっている。「庭に出てみた。隣の家との境に堀や壁がない」と。「ブロック塀などは造らないようにとの話があってそれに従った」と。「隣家の庭の草木、花々がまるで自分の庭の一部のように感じられる。毎日温泉を楽しんでる」という記事が載っていますが、山形はこういう環境にあるんですよね。こういうリタイヤした人をどんどん呼び込める環境がいっぱいあるんですよ。県の方もそういう企画を考えてどんどん呼び込んで欲しい。税金も落ちますし、非常にいいのではないかなと思うんですね。

芸術文化の面では、山形交響楽団があります。それからスポーツの面ではＪ１のモンテディオ山形。プロのオーケストラとプロのサッカーチームが県内にあるんですよね。こんなところ全国を見てもあまりないですよね。

それから、教育の話をさせていただきますと、山形の県立高校、北高に

は音楽科があります。それから中央高には体育科があるんですよ。音楽科、体育科がある県立高校もまた全国を見てもあまりないんですよ

私は、今後こういう面を県はどんどん活用していくべきではないかと思っているんです。

たとえば音楽面で言うと、山形県の県立高校だから山形県の生徒だけというのではなくて、全国から生徒を集めるというようなことができれば。それで北高の音楽科を卒業して、音大に行って、音大を卒業したら山形交響楽団に入る。このような流れで人材を山形に集めるということができないかなと思っております。山形交響楽団も今や全国区で、優秀な音楽家や若い音楽家がどんどん集まってきて受験して団員になっているようなので、レベルが高くてなかなか地元の子が入れない。だからますます地元の子としてはどんどん刺激を受けて、切磋琢磨して勉強して、それで音大を出て、帰ってきて交響楽団に就職すると。

スポーツの面もそうです。是非こういう見地を伸ばしてもらいたいなと。そのためには、いい先生を呼べばいいんです。よい指導者がいれば生徒は集まりますので、そういうところに予算を使ってもらえないかなと思います。

それで、山形の素晴らしい環境を利用してどんどん人を集めて成長していって欲しいと思います。

吉村知事　ありがとうございました。

人材を山形県に集めてというような御提案だったと思います。

スパイバーとか有機ＥＬなど、関係者がたくさん山形県におりますが、まだまだどんどんと集められるという御提案だったと思います。

では小嶋委員お願いいたします。

小嶋委員　はい。私は郷土愛を育む教育という観点から少しお話をさせていただければと思います。

郷土愛、自分のふるさとへ愛情を持つことは非常に大事であろうと思います。

将来生きていく上で一番基本的なベーシックな集団が家族でありまして、この家族と地元、生まれ育ったふるさとというのが、人が生きていく上での最も基本的な基盤になるのではないかなと思います。そういう意味で、家庭を大切にするように教え、ふるさとに対しての愛情を持てるような教育をしていくというのが、教育のあり方として最も重要なもののひとつであろうと思っております。

まず、そのためにはどうしたらいいかということですが、基本的には、

ふるさとについて色々なことをよく教える、知らしめるということがまず最も大事といいますか、最初にすべきことではないかと思っております。

具体的にいいますと、ふるさとの歴史、これは郷土史でありますし、また県全体のみでなく、大きく分ければ４地区、置賜、村山、最上、庄内の４地区であってもいいだろうし、市町村の区切りのものであってもいいと思うのですが、自分の拠って立つ、生まれ育ったところの歴史というものが、よく頭に入っていることは、非常に大事かなと思います。具体的にそういう勉強をするには、地域巡りというふうな企画をしたり、副読本、それから、子ども達に対してだと映像を使って教えていくとか、絵本的な漫画で教えるということがあってもいいかなと思います。手段は色々手に取りやすいもの、あるいは入り込みやすいような手段をとっていいのではないかと思うので、とにかく知らしめる努力というのが大事かなと思います。

その次に郷土の偉人のことを教えることが大事だと思います。最近の教育で非常に欠けていますのは、先人、自分達より先に生きて色々実績をあげたり活躍なさった方々を教えるという機会が非常に少なくなっていると思います。子ども達に偉人を学ばせることにより自分達がいかに生きていくかというモデルを示すことになるわけで、こういう生き方が素晴らしいんだよ、こういう生き方をしたいもんだねというふうな形で、子ども達に、その方々の生き様を教えることによって、自分がいかに生きたらいいかということを考えさせることが大事だと思います。これについても、副読本とか映像、漫画あるいは資料室を作って学習のもとにするということが考えられると思います。

それから地域におけるお祭りとか色々な祭事、特に伝統的なものが大事だと思います。それについては参加をしたり、何らかの機会でそれを学習できるような素材を準備してやったらいかがかなと思います。

それから特産品があると思います。その地域での特産品があって、それが経済的、文化的に地域に対し大きな貢献をしている部分があると思いますので、それも学習させる必要があるのではないか、あるいは、食文化も人間が生きていく上で非常に重要な部分でありますので、そういうことを学習することによって、ほかを見たときに自分が育った地域の文化との違いを認識できるようになるのではないかと思います。

関連して、日本人、特に日本人の子どもさんが外国に行って、日本について、あるいは自分のふるさとについて色々尋ねられたときに、答えることができないというケースが非常に多いと耳にします。困ってしまっている。この間聞いた話でも、小学生の子どもさんが留学して、聞かれて、何も答えられずに泣き出してしまったというケースがあったそうです。その子どもさんは帰ってきて一生懸命自分のふるさとのことを勉強しようと思

ったらしいのですが、これは自国についての知識を教えるカリキュラムが今の学校にないのではないか、あるいは十分足りていないのではないかと思います。

同じように、ふるさとについても、そういうシステム、プログラム的なものが作られていないのではないかと思います。

そういうことから、我々地元の人間としては、具体的に知っておくべき知識を中心として、分かりやすく表現するように考えて教えていくことが大事だなと思っています。そして、それを学習した子ども達が外部の人にちゃんと教えてあげられるくらいになれば素晴らしいと思いますし、少なくとも、知識として持っているくらいの子どもになれたらいいなと思います。

自分のふるさとについてしっかり知ることによって、ふるさとの先人あるいは自分のふるさとに対して愛情や敬意や誇りを持てるようになると思います。ふるさとに愛情や誇りを持っている子どもが成長して、その地元で暮らしていようと遠隔地に行こうと、ふるさとへの愛情を持って生活している人は幸せであると思いますし、ふるさとに対しての思いがありますから、地元に住んでいる人は常に住みよいまちづくりに貢献してくれるでしょうし、遠隔地に住んでいる人でも何かのときに、ふるさとに対しての力になってくれるということもあると思います。

そういう意味で、ある程度早い段階で外の世界を見る機会も作ってやる必要があるのではないかと思います。井の中の蛙ではなくて、ふるさとのことを学びながら、外のことも見聞するという両者を組み合わせながら子ども達を育てていくというのが非常に重要かなと思います。

非常に卑近な例なんですが、親が子どもに名前をつけますね。どういう思いを込めて、どういう考え方であなたの名前を付けたんですよということを子どもに丁寧に教えてやっていますと、自分の名前に対して非常に愛着をもって、その子どもが、その次の子どもを生むときに、その考え方を参考にして名前を付けるというケースが結構あると思います。

そういう意味で、思いを込めてふるさとを語るということが、非常に重要だと思います。

吉村知事　ありがとうございます。

郷土愛という言葉から、偉人を知るということ、ふるさとへの愛着、誇りを育むことが県内定着につながっていくということだと思います。

では涌井委員お願いします。

涌井委員　私からは、命をつなぐことの大切さに関する教育ということと、学校と

家庭・地域との連携、協働の大切さということに関する教育について少し述べさせていただきたいと思います。

生命の継承の大切さというものを学校で教えなければならないという現状を初めて知ったときに、実は驚きました

本来命を受け継ぐというのは、生き物、動物としては当たり前の欲求だと思うのですが、それをわざわざ教えなければいけないのは何故かというと、やはり、消費社会・情報社会など社会のゆがみの現れかなと私は捉えさせていただきました。

こういったゆがんだ社会で私達の子どもを育てていかなければならないということ。そこから子ども達を救っていかなければならないということを強く感じています。

命を受け継ぐに当たって土台となるのが、命って大事で、自分って大事なんだよという気持ちだと思うんです。それを知った上で、親からもらった大切な命を次につなげていくことになるのだと思いますが、私も親ですが次代に命をつなごうと思って親になったわけではなくて、一番の自然な感情としては、結婚して、旦那様ができて、奥さんができて、子どもを生んで、その子どもと一緒に家族ができて、そして人生を送っていくということが幸せなんだよっていう、そこの気持ちを子ども達がどう捉えるかということなのかなと思いました。

結婚して、子どもを生んで、育てて、ひとつの家族を作っていくということが幸せなことなんだよっていうふうに子ども達が感じるには、やはり、家庭で家族がどうやって過ごしていくかということが一番大事だと思います。家族っていいな、あったかいなっていう、そういう普通の自然な気持ち、感情を感じる機会がもしかして今の子ども達にはないのかな、だから命を受け継ぐことの大切さというか家族を作ることの大切さに対して、学校で教えたりしなければならないのではないだろうかと考えます。

そう考えると、やはり家庭の力、親が、夫婦が仲良くして子ども達と温かい時間を過ごして、そして、こういった幸せな気持ちを子ども達に感じてもらう。お互いに感じ合うことで、命を受け継いでいくことの大切さを自然に学んでいけるのではないかと思います。それを感じた上で、学校で、次代に命を受け継ぐということの意味を教えていく。まず家庭で幸せな気持ちを持たなければ、学校でいくら教えてもなかなか難しいのではないのかなと考えます。

一方で、命をつないでいくというのは、人口減少という難しい社会問題だというふうに捉えていけば、命をつなぐことというのは結局ふるさとを守る、そして日本を守るということだと思います。そういった大きな感情というのはやはり学校で教えていっていただきたいなと感じています。結

局、命の大切さというのは、家庭での過ごし方が大事で、更に学校ということなんですが、プラス地域でどのようにそれを、学校と家庭と一緒になって教えていくかということが大事なのではないかなと思います。

学校だけ、家庭だけではやはり難しくて、特に命の問題で難しい話などは、地域の活動家、市民活動をしている方とか、地域で先生になり得るような方々の力を使って、子ども達にそういった教育の場を、地域で提供していくということが必要なのだと思います。

私が今、子どもを育てていて学校との関わりの中で感じることは、今の学校というのはすごく閉ざされたイメージがあって、どうも地域に開かれていないのではないかということです。一保護者としても、非常に先生との距離が遠いと感じることがよくあって、また、学校と家庭の認識のずれなんかも感じたり、先生方が本音で何を感じているのかなと本当に分からなくなるときもあったりして、それは不信感とは別なんですが、もっと単純なところで、学校の運営の方法とか学級の中で起こった問題に対して先生がどのような考えを持って対処していったのかとか、そういうことが見えないことが非常に多いと感じています。

まだまだ閉鎖的な部分が多いなと、保護者の視点からでも感じられるような学校を、保護者だけではなくて地域にも開いていくというのは非常に難しいことなのではないかと思います。そういった今の現状を少しでも良くしていくためには、学校と地域、保護者だけではなくて、地域の皆さんがフラットに話し合える場づくりの必要性というのがあるのではないかと思います。

今地域コーディネーターという方がどの学校にも多分いらっしゃるんだと思うのですが、地域コーディネーターという方が何をしているのか分からない保護者が多分 99%くらいいると思います。私は教育委員をして初めて、「地域コーディネーターってこういう方だったんだ。」という感じで、保護者には全然その方達がどういうことをしているのか分からない。そういった状況もありますので、コーディネーターさんの力以前の問題で、皆がフラットに自由に話し合える場をたくさん作っていって、その上で、地域コーディネーターなり市民活動団体が一緒になって、皆で話し合って出てきた課題や問題点に対してどう対応していくかというところで初めて、市民団体との協働ということが生まれてくるのではないかなと思います。

地域と学校の連携、そして協働が確立していけば、生命の継承の問題や郷土愛を育む教育の問題、学力の問題、最近話題になってる子どもの貧困問題、そういったことも少しずついい方向に向かっていくのではないかなと感じています。

吉村知事　はい、大変ありがとうございます。

生命の継承といいますか、そういった改善をしたいなと思います。科学というのはどんどん積み重なっていくのですが、人生は人間一人ひとりでありますので、哲学や意識、色々な倫理観、本当に一人ひとりがゼロから、生まれたときからはじめなければならないという大きな問題があるんだろうなと私もしみじみ思うところがあるのですが、そこは教育、家庭、地域というところで、しっかりと育んで、できるだけつないでいくということが大事なんだろうなと思います。

では武田委員お待たせいたしました。

武田委員　今回人口減少ということでお題をいただいていますが、危機感がまだまだ足りないなと思っています。私は、ワーク・ライフ・バランス、婚活、イクメン・イクボスなどの活動をしておりますが、その本質的な部分がまだまだ伝わりきっていないな、なかなか推進できていないなと感じております。将来子ども達が社会の支え手になったときの問題ではなくて、正しく今手を打たないといけない問題ですので、どうやったらできるだけ多くの方に自分事として捉えてもらえるのかなと思います。

戦後日本は、生活の向上を支えようと皆で頑張ってきたわけですが、今は同じように、日本の未来のために皆の頑張りが必要な時代です。高校生や大学生であっても、「人口減少」と「地方創生」というのは自分達に非常に関わりの深い問題で、これに関わる仕事、地方で働くことが、これからの最先端になっていくというくらいの機運を生めないものかなと感じております。現在自分達がどのような状況に置かれているかという問題意識、そしてこれから何をなすべきかという課題意識、これを感じさせることも教育の狙いであっていいのかなと思っています。今の世の中のことが良く分かって、それでこう変わるべきだというような使命感とか志みたいなものが立ってから学ぶ学びというのが、生きている学びと言えるのではないのかなと感じております。

ほかにも、価値創造力、協働・共助の精神、主体性、グローカルが大事だと言われていますが、私は、リーダーシップというものが、地域では必要になってくるなと思っております。

リーダーシップというのは特定の立場や性格によるものではなくて、自分が何とかしなければならないと思ったことを周囲に働きかけて共有し、組織全体を動かすことができればそれがリーダーシップだと、今の時代は捉えられると思っております。弊社でもなかなか前に出れない奥手のスタッフがいましたが、意識付けをすることによって、積極的に意見を言う側、逆に引っ張る側に変わってきたということも目の当たりにしておりますの

で、自分はリーダー向きではないと最初から思うのではなくて、意識とか訓練で学生のうちから養えるものなんだという気持ちで、何事にも向き合っていただきたいなと感じております。山形の方は控えめだとよく言われますが、社会人基礎力で言われている「前に踏み出す力」というのがちょっと弱いかなと感じることがあります。自分の能力をより積極的に発揮してもらうためにも、前に踏み出す力、リーダーシップというものを、何とか意識して学校現場の中で養えないものかなと感じております。

私の娘が今年から高校生になりまして、文武両道ということで、部活も勉強もかなり忙しい毎日を送っておりますが、自分が社会に役立つ人間になろうという志を、いつどの場面で立てられるのかなと思っております。進学校だと既に、どの大学に行くとかそういったところが父兄の中での話題になっておりますが、是非その先にどうありたいか、どういう自分達の未来を作っていくかというところまで思い描けるようなきっかけがあればいいなと思います。そうすることで、地方でも主体的にリーダーシップを発揮して問題解決に向かう人材が１人２人と増えていければ、地域もより活性化するのではないかなと感じております。

吉村知事　ありがとうございます。

危機感がもっともっと不足しているのではなかろうかという指摘や、若者達が、自分達が働いていくことが日本創生につながっていくことをしっかりと認識するだとか、リーダーシップについて御意見を頂戴いたしました。

このところ４本の成長戦略を掲げて取り組んできたわけですが、全部働く場所を作ろうということを目的にしております。実は働く場所を作ってそこで働いていくということがすごく大事だよということを、東京の方とも話をしたところです。

皆様方から一通り御発言をいただきまして、本当に貴重なお考えを頂戴したと思っております。

私から一言申し上げたいと思いますが、まず、本日大綱を決定しましたので、６教振につきましても、これを踏まえて教育委員会でしっかりと作っていただきたいと思います。

それから、真に人づくりは県づくりの基本、社会の基盤だと思っておりまして、教育はとても大きな、重要な役割を担っていると思います。

先ほど来、教育について貴重な御意見を頂戴しました。皆様の御意見を大事に反映させることが、私どもの役割かなと思っているところです。

人間力を育む。本県の将来を担う人材を育てる。こういったことは本当

に重要です。これからの社会を主体的に生き抜いていく人間を育成していく、そのために確かな学力を育成してグローバル化に対応した教育をしていく。小中高の各段階で積み重ねていかなければならない内容だと思っております。

また、委員からお話いただきましたが、山形県の素晴らしさということを、もっともっと、若い人、子ども達に伝えていくべきだと、そして県外にも発信していくべきだと思っております。そのことが郷土愛の育成につながりまして、県内定着、また県外からも人材を呼び寄せるというふうにつながっていくと思います。

様々な産業がありますが、今年度、県内のものづくりの会社のガイドブックみたいなものを作って、小中高向けに、県内にも素晴らしい会社があるんだよということをお伝えするという事業もやりますし、まだまだ足りないのですが、子ども達がもっと郷土のことを知るように皆で力を合わせてやっていきたいなと思ったところです。

グローバル化、これは本当に逃れられない。県だけで完結できるわけではありませんので、県外に行ったり、県内にいてもグローバル化はもう避けられないと思います。「前に一歩踏み出せるように」という御意見を頂戴しましたが、どういうふうにして取り組んでいけるのかということをしっかりと考えていかなければいけないと思っております。大学には留学生を迎えるとか、英語教育を主体的に取り組むこととしておりますが、小中高でどういうふうにやっていけるか、しっかりお願いしたいと思っています。

色々な視点を頂戴いたしました。地方創生に向けた議論を、これからも引き続き教育の面でもお願いしたいと思っております。

今年の 10 月には山形県総合戦略を策定する予定です。これからもお気付きの点や御意見がありましたら是非お聞かせいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

次の御意見をと思いましたが、もうお時間がなくなってしまいました。

皆様今日は御協議大変ありがとうございました。

ここで座長の座を降りさせていただきます。

閉　　会

以上をもちまして、「第１回山形県総合教育会議」を終了いたします。

ありがとうございました。